

奈良県川上村の観光情報が満載！

第19号

2026年 秋

ひとめぐり がわかみ

この写真は、大字武木の十二社神社にある太鼓台の彫り物です。
太鼓台そのものは非常に立派で、重量も相当あるように見えます。
武木の人たちは、この太鼓台を大切に、
そして誇らしげに守っています。

Kawakami Information

169号 秋景色 川上村の“秋”何を感じていただけるでしょうか。

9月

最近が残暑が厳しく秋は感じにくくなりましたが、お盆過ぎからトンボが飛びだし着実に秋は近づいています。暑い中秋冬野菜の準備をするのも大変な気候になりました。
9月から、秋祭りが各集落ではじまります。最も早いのが9月15日の放生祭、八朔祭から始まり、大字ごとの祭りがあって、11月23日の東川の祭りまでで終わります。

お盆過ぎからミョウガが採れるようになります。トチ餅の材料のトチの実が落ちてそれを拾っていましたが、最近は鹿の方が早くて採るのが難しくなっています。

秋分の日、彼岸の中日ということで、朝からお墓参りをし、お寺で塔婆書き、法要があります。ちょうどこの時期に名前のおと、ヒガンバナが咲きます。このころになると、釣れる鮎は大きくなり、メスは卵を持ち始め「子持ち鮎」と呼ばれ、より美味しくなります。



ヒガンバナ

10月

柿や栗などの果樹が実りの時を迎えます。
アケビやサルナシ、マタタビ、キノコなど山の幸の恵みをいただく季節です。畑ではサツマイモや里芋を掘り上げて貯蔵します。コンニャク芋も同様です。フジバカマにアサギマダラがやってきます。
下旬には、高い山々から紅葉が始まります。人工林の緑の山の中に、杉や桧が植林できない尾根や崖、岩の多い場所には天然の広葉樹などが育ち、紅葉することで面白い風景を作り出しています。



アサギマダラ

11月

白菜、大根の収穫が始まる季節です。今は行われていませんが、山幸彦まつりのときには、白菜、大根と言った農産物の品評会が開かれ、家庭菜園ながらも自慢の野菜たちが出品されました。特に大字高原の白菜には定評がありました。
山の紅葉もだんだんと進み、広場にあるイチョウの葉が黄色い絨毯を作ります。冬に向けての準備も始まります。とはいえ、国道の積雪は少なくひと冬に数回あるかどうかです。



イチョウ

「あ〜秋やな」と、川上村の秋を感じに来ませんか？

瀬戸

川上村に入ってから車で国道169号を約30分走ると中奥、粉尾方面への看板が見えてきます。左折し、鉄の瀬橋を渡り、中奥川沿いに入ると新しい村営住宅が立ち並んでいます。もう少しばかり行くと瀬戸団地があります。もともとはもっと奥にあった集落を集団移転して出来たところです。当時は21軒が建っていました。元の集落を奥瀬戸と呼んでいました。

粉尾

瀬戸団地を過ぎて数分で、吉野杉の大きな木が立っている場所(チゴロ測)に差し掛かります。吉野林業の説明をするのによく見えてもらう場所で、樹齢300年の杉の木がたくさん立っています。左手に十二社神社が見えてきます。中奥3地区の神社になっています。そして右手に見えてくるのが粉尾の集落です。樽丸の製造を行っています。吉野杉は樽を作る目的で密植林業が行われたとも言われています。地域おこし協力隊出身者が民泊「暮らす宿 HANARE」と「(一社)おおずみ舎」を運営しています。中奥川はダムによって吉野川本流が無くなって残された支流でアマゴやアユ釣りが楽しめます。



暮らす宿 HANARE

中奥

粉尾から上流へ向かって林道を進んでいくと、中奥集落へと上がって行く道があります。
移住者の方が「ツクルテウムテ」の名前で特産品づくりをしておられます。対岸の山の中に「白髭岳」の登山口付近に「大鯛滝」があります。村の中でも本当に「山の暮らし」を感じられるところだと思います。
瀬戸、粉尾、中奥は、大字の名称は「中奥」です。神社やお寺も統合や合祀の変化が起きています。
中奥川:吉野川の支流



ツクルテウムテの商品



アカナメ

白川渡

国道から鉄の瀬橋を渡り左折し、谷口橋を渡ると白川渡の集落です。「白川渡オートキャンプ場」があります。この場所は、大滝ダム建設事業の中で、吉野川が湾曲していたところを、真直ぐに流れるように開削することで土地が出来、オートキャンプ場として活用しています。運営は白川渡区で行っています。キャンプ場から歩いて15分ほどで中奥川に行くことが出来ます。



白川渡オートキャンプ場



吉野杉の森

北和田

旧川上第三中学校が「ふれあいセンター」になり、その後「かわかみらいふ」の事務所になりました。村民の買い物をサポートする形で移動スーパーやガソリンスタンドを運営しています。旧川上東小学校跡地を「大阪工業大学源流分校」に、その体育館では「武道ツーリズム」の拠点、剣道の稽古場として活用しています。



大阪工業大学 源流分校

神之谷

金剛寺には、役行者の「投げ地藏」の話が伝わっていて、「木造地藏菩薩立像」が祀られています。また、後南朝哀史の自天王を偲ぶ「御朝拝式」がこの金剛寺で毎年2月5日に行われています。冬には「御朝拝式ツアー」募集があります。この地域には後南朝ゆかりの名所、史跡が残っています。神之谷から白髭岳への登山道があります。生態学者で登山家の今西錦司博士の1500山目で有名です。



金剛寺

道の駅横の観光案内所である「かわかみ源流ツーリズム」に立寄って詳しくお尋ねください。

粉尾

- 暮らす宿 HANARE
- (一社)おおずみ舎
- 樽丸工房
- 十二社神社・社叢
- 正覚寺
- 中奥川

中奥

- ツクルテウムテ
- 大鯛滝
- 来迎寺

白川渡

- オートキャンプ場
- 八幡神社
- 鉄の瀬橋(クワノセバシ)

北和田

- かわかみらいふ
- 大阪工業大学源流分校
- 極楽寺
- 妙見神社
- 若年神社

神之谷

- 白髭岳
- 清谷神社
- 屏風岩
- 金剛寺
- 自天親王神社
- 御座橋
- 若年神社(十二社神社)



村の歳時記 9～11月

行事

花・鳥・虫カレンダー

9月

1日

- 防災の日
学べる防災ステーション
校外学習などで大滝ダムや大滝ダム・学べる防災ステーションを訪れた子どもたちを対象に、見学の際にそれぞれが「見たこと、学んだこと、感じたこと」を「ダム見学新聞」とりまとめ、コンクールに応募して頂いています。



4日

- 芋名月
- 森 森里交流会「大和川源流の生きものとくらべよう」

15日

- 迫・宮の平秋祭り
- かわかみ源流ツーリズム4周年「かわかみマルシェ2026」

20日

- 敬老の日

21日

- 秋分の日

23日

- 伊勢湾台風襲来の日(昭和34年)
この台風を機に大滝ダムの建設へと動いた

26日

- 森 水源地の森環境学習ツアー(源流人会会員対象)

10月

1日

- 高原秋祭り(高原十二社神社)
- 匠 フォトコンテスト作品募集締め切り!



4日

- 秋季例大祭(丹生川上神社上社)
- 森 第52回日本洞窟学会大会(協力:公開講演会)

10日

- 村民大運動会(源流学園、やまぶき保育園)
- スポーツの日

12日

17～18日

- 武木秋祭り(十二社神社)
- 森 井光 民俗調査(井光神社)

18日

- 森 源流学の森づくり体験会(源流人会会員対象)

24日

- 川上村第24回剣道交流大会

25日

11月

3日

- 文化の日
- 西河大名持神社例 大祭
- 大滝秋祭り



7日

- 森 山の神(三之公、水源地の森入口)特別展示「芽吹き」(12月28日まで)

7～8日

- 山幸彦まつり(予定)

16日

- 川上村「源流の日」
第34回「全国豊かな海づくり大会～やまと～」放流・歓迎行事に天皇、皇后両陛下御来村を記念して制定されました。(2014年)

22日

- 森 源流学の森づくり(林内の歩道整備)

23日

- 東川秋祭り



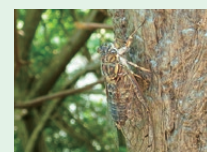
ゲンノショウコ



オトコエシ



ヤマジノホトトギス



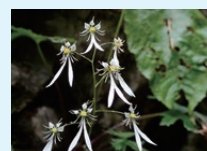
ツクツクボウシ



ショウリョウバッタ



アケボノソウ



ジンシソウ



クヌギ



モズ



スズムシ



ヨメナ



リンドウ



ジョウビタキ



スギエダタケ



アキチョウジ

森と水の源流館 匠の聚 ホテル杉の湯

歳時記の深堀り 川上村の祭り



武木祭り



武木祭り



武木祭り



亥の子餅



亥の子餅



亥の子餅

川上村の暮らしには「山」との関係が欠かせませんが、「山の神」の祭りが1月、6月、11月の各7日に行われています。3回のうちの1回はゴクマキ(御供撒き)をする月があって1月7日だったり、11月7日だったり大字(集落)で違いがあります。それ以外にも神社やお寺の行事、小さな祠の神様、地蔵様のお祭りも行われています。季節ごとのお供え物を用意することが風物詩でした。

今回秋号で、紹介するのは「かわかみ源流ツーリズム」が提供しているツアー事業で「武木の秋祭り」に準備から参加するものを中心に紹介したいと思います。

「武木では、十二社神社のお祭りで、当屋、禰宜、氏子総代、区長らが集まって行われる。前日(ヨミヤ)にはかつて太鼓台を担いで、区内を練り回した。当日は、朝から神事を執り行い、太鼓台が境内を回る、酒盛りを行いそれが終わると当屋が次の当屋の受渡しを行い、ゴクマキが行われ祭りが終了する。」(「川上村民俗調査」から抜粋)

昔から受け継がれて来た祭りだが、最近では簡略化されたり

しているが、住民にとっては無くてはならない祭りで、村外に住んでいる人も帰ってきて参加したりしています。どこの大字でも同じように、人がいなくなって昔の厳しい決まり事では執り行うことが出来ずにやむなく簡略化してでも繋いでいこうとしているのが現状です。

小さな行事での「行事食」としては、「亥の子餅」があります。今回大字井光で、毎年作られている塩谷加壽子さんの体験プログラムとして募集しています。

「11月の亥の日におこなった。弁天さんはカジヤシの奥にあり、そこではお参りをした男性がお酒を飲んでいた。遠かったが子どもは御供をもらえるのでついていった。この日に作る「亥の子餅」は里芋のご飯をもち米で炊いて塩味をつけたものを潰し、餡をまぶしたものである。」(「川上村民俗調査」から抜粋)

もち米で炊くか普通の米で炊くかの違いもあったり、隣の大字武木とでも少し違いがあったりします。

フォトコンテスト作品募集!

応募締め切り:2026年10月1日(木)

- 一般部門:写真プリント、もしくはWEBで応募
- インスタグラム部門

プロ・アマ問わず気軽に誰でも参加OK!川上村にある魅力を撮ってどしどし応募してください。観光で訪れた、仕事や友人と出会う機会があった、イベントに参加した、繰り返し川上村に訪れているなど、川上村の魅力をあなたの視点で表現してください。

- 匠の聚大賞 1点:賞金10万円
- 川上村長賞 1点:賞金3万円
- 川上村議会議長賞 1点:賞金3万円
- ほか賞多数

審査員:写真家・百々俊二・内山りゅう・野村恵子

問合せ・応募先

匠の聚(たくみのむら)

〒639-3541

奈良県吉野郡川上村東川135「匠の聚フォトコンテスト事務局」

TEL:0746-53-2381

〈応募URL〉

<https://takuminomura.gr.jp/photocontest2026/>



村の歳時記について、まだまだ情報を集めきれませんがみなさんの協力で徐々に増やしていきたいと思ひます。

自然と向き合い、人と村をつなぐ

川上村観光協会会長 貝谷 耕治郎さん

(貝谷製麺所 代表)

川上村高原地区で約50年にわたり三輪素麺を作り続ける、村唯一の製麺所「貝谷製麺所」。その二代目として暖簾を守る貝谷耕治郎さんを紹介します。6月からは川上村観光協会会長にも就任し、村の魅力を発信する新たな役割も担っていたいでます。



貝谷製麺所は、耕治郎さんの父・幹郎さんが、林業の冬場の副業として桜井市で三輪素麺づくりを学び、創業したのが始まりです。当時、耕治郎さんはまだ保育園児。幼い頃から製麺の手伝いをするのが当たり前の暮らしで、素麺づくりは自然と生活の一部になっていきました。

四人兄弟の末っ子である耕治郎さんは、大阪で飲食業界に就職し、約4年間会社員として経験を積みました。しかし、父・幹郎さんの体調不良をきっかけに川上村へ戻り、家業を継ぐ決意をします。それ以来、父から受け継いだ技と心を大切にしながら、製麺に向き合い続けてい



貝谷製麺所さん看板

ます。

貝谷製麺所の代表銘柄「高原乃糸」は、12月から3月までの厳寒期だけに生産される三輪素麺です。標高約700メートルの高原地区は、水源地の村。川上ならではの清らかな水と澄んだ空気に恵まれ、冬には日中でも氷点下になるほどの厳しい寒さに包まれます。この恵まれた自然環境が、コシがあり、吉野葛が混ざることですつとしたのと越しの良い素麺を育みます。200cmまで延ばすと完成。水分を12%以下に均一乾燥させ、切り分けて結束し、箱に入れて梅雨明け頃に出荷となります。



素麺を干している様子

ているのは、父から繰り返し教えられた「自然に逆らわない。素麺に合わせて仕事をする。」という言葉です。気温や湿度は日々変化し、同じ日は一日としてありません。人の都合ではなく、その日の自然に合わせて工程を調整することこそが、おいしい素麺づくりにつながると思います。長年受け継がれてきた職人の知恵は、自然への敬意そのものです。

一方で、耕治郎さんは観光協



出来上がった『高原乃糸』



会会長としても新たな一歩を踏み出しました。これまでも製麺所を訪れたお客様一人ひとりに合わせて、村内の見どころやおすすすめスポットを紹介してきました。「観光をもっと盛り上げていくことは大切」と話す一方、近年は村内で若い世代が新しい事業に挑戦する姿も増えていることを心強く感じているそうです。観光協会や源流ツーリズムを通じて、そうした人たちがつながり、新しい交流や取り組みが生まれる、楽しく活気ある村にしていきたい。そんな思いを語ってくださいました。



高原地区の景色

吉野林業と地域の未来を

つなぐ挑戦



伐採ツアーガイド 勢渡 正文さん (Kカネジユウ 代表)

創業1963年の株式会社カネジユウで、川上村産の「吉野杉の磨丸太」を中心に社会に提供してきました。生まれ育ちは中奥。中奥川や家の近くの山が遊び場でした。そんな勢渡正文さんをご紹介します。



代々続く林家に生まれ、長男として自然な流れで吉野林業の道へ進みました。「家業でしたから、継ぐことに迷いはありませんでした」と話す勢渡さん。先代は昭和38年から磨丸太の製造販売を始め、長年にわたり吉野林業を支えてきました。しかし、住宅様式の

変化によって床柱を使う家が減り、磨丸太の需要も大きく変化しています。そうした時代だからこそ、「川上の木そのものの価値を知ってもらい、評価してもらえる機会をつくりたい」という思いを強くしています。その取り組みの一つが、昨年夏から始めた樹齢約270年

の吉野杉の太木を伐倒する奉納行事です。奉納演奏とともに太木を伐倒することで、吉野林業の迫力や伝統技術を多くの人に体感してもらおう催しとして注目を集めています。「太木を伐る技術は吉野林業の神髄です。しかし山林事業者は年々減少し、このままでは、その技術を受け継ぐ人がい



昨秋ツアーでの伐採の様子

くなる時代が来るかもしれません。「現在、吉野で本格的に林業を営む人は一桁ほどにまで減少したといえます。それでも、すべてを残すことは難しくても、3分の1でも5分の1でも技術や文化を継承できればと、未来思いをつないでいます。

昨年夏の奉納行事には約250人、秋には約200人が来場し、村内外から多くの人が訪れました。特に村外からの参加者も多く、「これだけ多くの方に関心を持っていただけたことが何よりうれしい」と話します。今年はさらに来場者が増えることを期待し、「奉納演奏の舞台に立つてみたい」という声に応える特別企画や、特別観覧席の設置などツアー実施に向けても新たな楽しみ方も検討していたでいます。また、多くの人が山を訪れる機会を活用



奉納演奏の様子(丹生川上神社上社太鼓保存会 龍)

し、山林での火気厳禁など森林保全の啓発にも力を入れていく考えです。勢渡さんは、中学生から檣原で生活を送り、仕事を続けてきました。2年前にふるさとへ戻ったのは、「商売がひと段落したら、いつかは実家に帰ろう」と以前から決めていたからです。現在は中奥区の区長も務めています。人口減少や人手不足が進む地域で、「山の暮らしは苦勞も多いですが、これまで地元になかった分、地域の皆さんの役に立ちたい」と話します。地域の困りごとにも積極的に取り組み、地域住民に寄り添った活動が続いています。

吉野林業の伝統を未来へつなぎ、地域の暮らしを支えていく。その思いを胸に、勢渡さんは今日も中奥の山で新たな挑戦を続けています。



奉納行事を見つめる勢渡さん



ツアー参加者へ吉野杉の説明



中奥川の清流

秋の宿泊・日帰りツアー募集予告

絵巻巡礼 川上三十三霊場めぐりツアー

1泊2日

6月に台風で中止となった話題のツアーが再登場!約200年前の絵巻を手に川上三十三霊場を巡る、歴史と祈りを体感する限定8名のプレミアム巡礼ツアーです。



実施日:2026年9月5日(土)~6日(日)

秋の丹生川上神社三社巡りと上社夜間特別拝観ツアー

1泊2日

春に大好評の丹生川上神社三社巡りが秋も開催!夜間特別参拝で神職のお話を聞き、日本最古の水の神様を巡る特別な2日間。



実施日:2026年11月28日(土)~29日(日)

奈良県川上村 伐採プレミアムツアー

1泊2日

一般非公開エリアで行われる木の伐採・奉納行事を特等席から見学できます。講演会や折り・舞も楽しめる、このツアーだけの特別な体験です。



実施日:2026年10月11日(日)~12日(月・祝)

吉野川源流『3つのダム』特別日帰りツアー

日帰り

川上宣言30年記念!普段は入れない大滝ダム内部を特別見学し、大迫ダムと「緑のダム」を巡る日帰りツアー。限定ダムカードも手に入る特別な一日です



実施日:2026年11月15日(日)

川上村武木地区 秋祭り体感ツアー

1泊2日

観光では味わえない、武木地区の秋祭りを深く体感。準備から神事、直会、餅まきまで、地域の暮らしや伝統、人との交流を楽しむ特別な1泊2日です。



実施日:2026年10月17日(土)~18日(日)

※募集(詳細)開始はツアー造成後順次、チラシ・ホームページ・SNSでの告知を予定しております。

武道ツーリズム

◆問い合わせ かわかみ源流ツーリズム TEL 0746-52-0333

武道ツーリズムとは日本発祥の「武道」と観光を融合した新たな旅のスタイルです。

日本でしか体験できない武道と文化が融合した希少性の高いツーリズムとして、海外からも高い関心が寄せられています。

川上村では、剣道範士八段 上垣功氏が指導する剣

道稽古会の見学、体験ができます。最近では、武道の動きを活用したりハビリが高齢者の健康維持に効果があると言われています。武道(剣道)の体験をしてみませんか。初心者の方も歓迎です。ぜひご相談ください。



アクセス



近鉄電車でお越しの方



お車でお越しの方



問い合わせ先



かわかみ
源流ツーリズム
KAWAKAMI GENRYU TOURISM

一般財団法人 かわかみ源流ツーリズム

〒639-3553

奈良県吉野郡川上村大字迫1335番地の3(川上村商工会館1階)

TEL.0746-52-0333 <https://g-tourism.jp/>

